



第 45 号
平成27年12月10日 発行
発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
坂本 裕彦

基本“唯惜命”
理念

私たちは生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 副病院長就任のご挨拶……………1
- 副病院長就任のご挨拶……………2
- “リレー・フォー・ライフ”を知っていますか？……………3
- アレイCGH解析を用いたがんの診断と個別化医療への応用／埼玉県民のための“がんの集い”を開催します。…4



埼玉県のマスコット コバトン

副病院長就任のご挨拶



副病院長
影山 幸雄

2015 年 4 月より前任の坂本先生の後を継ぐ形で副病院長（医療安全管理室長、手術部長、臨床工学部長、倫理委員会臨床倫理部会長）を拝命いたしました。2006 年 4 月に着任して以来 9 年

が経過し、その間専門の泌尿器科としての診療に邁進する傍らホームページの刷新など様々な形で病院全体の活動にも関わってまいりました。この度、さらに一步進んで病院のマネージメントにも関わる立場となり、責任の重さに身が引き締まる思いであります。以下現在の活動状況を簡単にご紹介いたします。

安全で質の高い医療を受けたいという願いに答えるために、医療行為に関連して生じた事故等の情報を集めて分析し、改善への提言を行うのが医療安全管理室です。毎日たくさんの報告書が寄せられ、それを元に関連要因の分析および現場への還元を行っています。10 月からは医療に関連した予期せぬ死亡事例を病院が主体となって調査する医療事故調査制度が始まりました。当センターでも埼玉県の病院局と連携して体制を整備しつつあります。

癌診療の柱の一つである手術を拡充するため様々な活動を行っています。新病院の開院とともに手術室数を増やした他、ロボット支援システムの導入や内視鏡手術対応環境の整備など、より質の高い医療を供給すべく努力を続けています。麻酔科医師、看護師、臨床工学士など多職種で力を合わせて安全な手術が出来るように心がけています。

日進月歩の医療機器をサポートし、保守管理しているのが臨床工学部です。心電図モニター、AED（自動除細動装置）、輸液ポンプなど様々機器を扱っており、病院全体としてはかなりの業務量となります。臨床工学部が関わる場面は今後も増えていくと思われ、不足気味のスタッフを増員すべく努力を続ける他、コンピュータを用いた管理システムの導入などにより効率化を図るようにして対応しています。

医療技術の進歩や薬剤の開発は目覚ましいものがありますが、新しい治療法の導入にあたっては、安全性の確保と患者さんへの十分な説明が必要となります。そのため以前から活動していた倫理委員会の下部組織として臨床倫理部会を新たに設置し、特に診療に深く関連する事案を審議する場を設けました。新規治療に限らず、倫理的な問題が生じる恐れのある事例を病院全体として討議する場ともなっています。既に 8 件の事案を審議し、成果を挙げています。今後もさらに機能を充実させていく予定です。

副病院長就任のご挨拶



副病院長兼看護部長
徳世 良重

今年度、副病院長兼看護部長として就任しました徳世良重です。私は、昭和 52 年に新人看護師としてがんセンターへ就職してから、がん看護一筋に 24 年間勤務した後、

他の県立病院への異動をしながら看護師としてのキャリアを積んできました。そして、今年、4 年ぶりにがんセンターへ舞い戻ってまいりました。今回の異動では、副病院長という重責を担うことへの不安と、私が新人看護師から看護師長になるまでの成長を見守ってくれた、思い出のある赤レンガの旧病院が姿を消していたことへの一抹の寂しさなど複雑な思いを抱きました。そして、就任初日、森の中にある新病院の「はじまりの坂」に大きな荷物を持って緩やかな坂を上りながら、その不安はさらに深まっていきました。「はじまりの坂」とは、新病院南側の精神医療センターと面した敷地入り口から病院玄関に向かう坂のことです。誰が名づけたかはわからないということですが、何故か、毎日「はじまりの坂」のゆるやかな坂をのぼるたびに、「はじまりの坂」の意味を考えます。新病院へ赴任して、早半年、今は病院機能評価受審の準備に追われる毎日ですが、充実した日々を送っています。

がんセンター看護部は、40 年というがんセンターの長い歴史の中で、開院当初の看護部の理念であ

る「思いやりのある、心のこもった、質の高い看護の提供」を実現するために、成長、発展してきました。特に、がんの痛みをはじめとする苦痛症状への緩和ケアの取り組み、そして、がん告知が十分されていない昭和から平成の移り変わりの時代に、患者さんに「真実を伝えること」の大切などを看護部主催の緩和ケア研究会で議論してきました。今は、患者さんの自己決定権を尊重する時代と変わり、緩和ケアのさらなる普及のため、がんセンターには緩和ケアセンターが設置されました。がんセンターの 40 年の歩みを振り返るとがん医療の発展が良くわかります。今後は、副病院長兼看護部長として、看護師一人ひとりが誇りと自信を持って、患者さんやご家族、医療チームメンバーの大きな期待に応えられるように、「がんで苦しむ人がいない世界」の実現のため、貢献したいと思っています。最後に、がんセンターに舞い戻り、うれしかったことは、患者さんやご家族のための施設・設備が充実したことです。がんで苦しむ患者さんやご家族が、少しでも癒される空間がそこにあるからです。そして、たくさんのボランティアの方々が患者さんやご家族のために存在していることです。多くの方々に支えられて、がんセンターは存在していることを忘れずに、「認め合い、支え合い、成長する看護部」をめざし、患者さんやご家族の思いに寄り添う看護が提供できるように邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



“リレー・フォー・ライフ”を 知っていますか？

リレー・フォー・ライフ・ジャパンさいたま2015参加報告

埼玉県立がんセンター 副病院長
リレー・フォー・ライフ・ジャパンさいたま2015
実行委員会副委員長
横田 治重

“リレー・フォー・ライフ”は、がん患者さんや
そのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合っ
て「がん征圧」を目指す、1年を通じて取り組む
チャリティ活動です。活動の3つのテーマは、次
の3つです。①Celebrate 祝う：がんの告知や闘病
を乗り越え、今を生きているサバイバー（患者さん）
やケアギバー（家族・ボランティア・医療者など
の支援者）を讃え、祝福します。②Remember し
のぶ：がんで亡くなった愛する人をしのび追悼しま
す。③Fight Back 立ち向かう：がんの予防や検診
を啓発し、制圧のための寄付を募り、癌に負けな
い社会を作ります。

年間を通じて行う活動の中で、大きなイベント
が年に一回開催される 24 時間リレーウォークで
す。1985 年にアメリカで始まったイベントも、現
在 20 カ国以上・年に 400 万人以上の参加を得て行
われています。わが国でも 2006 年につくば市でト
ライアルとして開催後、2009 年からはさいたま市
でも開催、今年は全国 40 ヶ所以上で開催されます。
埼玉県立がんセンターも 2013 年からチームを作っ
て参加しています。実際のイベントでは、チーム
での参加者がたすきをリレーしつつ思い思いの速
さで 24 時間歩き続けるほか、当日の参加者も、会
場で行われるステージの催しや啓発講演を見たり
聞いたり、あるいは夜に向けて並べて点灯された、



患者 / 家族 / 支援者などが
思いを言葉や絵にこめて描
いたルミナリエバッグ（紙
製の灯籠？）を眺めたりし
ます。このような時間の中
でそれぞれが讃えあい、今日此処にいない方を偲
び、がん征圧への思いをはぐくむのです。

今年のリレーイベント“リレー・フォー・ライフ・
ジャパンさいたま 2015”は 9 月 12～13 日にさい
たま市緑区農業者トレーニングセンター緑の広場
で開催され、がんセンター職員からは当日参加者
79 名、寄付などチャリティ協力者を含めると 256
名の協力を得て、参加費を含めた寄付を行ったほ
か、センタースタッフによる多彩な啓発講演・相
談活動を行いました。またリレーチームとしては、
24 時間交替しながら元気に歩き続けた上、一部の
メンバーは明け方の空いている時間帯には軽快に
ランニングするなどして結局 250m トラックを延
べ 450 周以上（100km 以上!!）歩きました。（た
ぶん参加チームで一番）また、がんセンターの患
者さんやご家族も来場していただいたようです。

当日参加していただいた皆様、また寄付やルミ
ナリエバッグに御協力頂いた皆様、大変ありがとう
ございました。チャリティ焼き菓子の寄付を通じ
て御協力を頂いた院内のレストランロイヤル様、
チームのメンバーなどで心をこめて折って頂いた
千羽鶴（外来相談支援センター脇の情報スペース
に展示中です）をがんセンターに寄贈頂いた東急
建設様にも御礼を申し上げます。

そして、今年は参加できなかった患者様、ご
家族、一般の方々、がんセンターのスタッフの皆
さん、我々も年間を通じた活動をさらに強化して
まいりますので、是非来年のイベン
トにはおいでにな
り、共に素敵な時
間を過ごそうでは
ありませんか！



アレイCGH解析を用いた がんの診断と個別化医療への応用



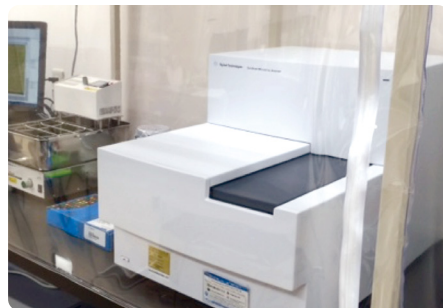
がん診断担当
臨床腫瘍研究所
大平 美紀

がんの治療では、診断時に腫瘍の悪性度などの性質をあらかじめ詳細に予測することが、効率的かつ副作用の少ない治療を選択することに繋がります。臨床腫瘍研究所では、平成 26 年度にマイクロアレイ解析システムが導入され、短い DNA 断片が高密度に搭

載されたマイクロアレイを使って、染色体の欠失や増幅を網羅的に調べるアレイ CGH 解析や、ヒト全遺伝子の発現データを一度に取得できる設備が整いました。私たちのこれまでのアレイ CGH 解析から、代表的な小児固形腫瘍のひとつである神経芽腫では、染色体 1 番、11 番、17 番の部分的な欠失や増加、MYCN がん遺伝子の増幅の有無等のパターンにより、超高リスクから超低リスクまで分類できることがわかりました。現在日本神経芽腫スタディグループが進める臨床試験の付随研究として、このリスクマー

カーの前向き検証を進めています。このような解析が可能となるのは、詳しい予後や再発の有無など臨床情報が付随した古くからの腫瘍組織のバンクがあるからです。当センターにおいても腫瘍検体などの研究用バンキングが適切な同意取得システムのもと既に開始されています。（バンクについては次号でご紹介します。）今後も各診療科と連携し、腫瘍組織のゲノム、遺伝子情報の網羅的データをもとにしたがんの治療個別化に役立つマーカーの探索と診断システムの開発にむけて日々努めていきます。

(CGH:comparative genome hybridization—比較ゲノムハイブリダイゼーション法)



マイクロアレイ
解析システム



進行例 再発腫瘍のアレイCGH解析

第40回 埼玉県民のための“がんの集い”を開催します。

平成 28 年 1 月 31 日(日)に、「第 40 回 埼玉県民のための“がんの集い”」を、さいたま市のソニックシティ国際会議室にて開催します。本年度は、「見つけて治そう、あなたのがん」を総合テーマとし、「がん検診から治療を受けるまで」及び「二次検診及び治療について」の二部構成で講演する予定です。

一部「がん検診から治療を受けるまで」では、埼玉県疾病対策課による県内のがん検診受診を推進する取組や課題の講演と、当センター看護師によるがん検診の結果を受けてから治療を始めるまでの流れについて説明がされます。

二部「二次検診及び治療について」では、当センター医師によって診療科ごとの二次検診と治療の内容について講演されます。

難しい内容をわかりやすく講演するよう企画していますので、どなたでもお気軽にご参加ください。

平成 28 年 1 月 25 日(月)までにはがき又は電子メールにて、住所、氏名、電話番号、年齢、性別、参加人数を明記のうえ、当センター「がんの集い」係までお申し込みください。また、当センター 1 階「総合案内」でも受付けています。

郵便

〒362-0806
北足立郡伊奈町大字小室 780 番地

メール

n221111@pref.saitama.lg.jp